週刊 高齢者住宅新聞
2014年（平成26年） 1月22日（毎週水曜日発行）
Elderly Press Newspaper エルダリープレス ニュースペーパー
第287号
（株）高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL.03-3543-6852（編集部） http://koureisha-jutaku.com
発行人 西岡一紀 年間購読料 21,000円（送料込・税込）

新介護報酬単位決定

第98回社会保障審議会介護給付費分科会が1月15日に開催された。平成26年介護報酬改定を0・63%増とすること、および各介護保険サービスの単位数について厚生労働大臣から分科会への諮問が行われ、分科会がこれを認める答申を行った。また区分支給限度基準額についても、引き上げ後の額が示された。
※各介護保険サービスの単位数については1月29日号で詳細を発表する。

0.63%の引き上げ実施

消費税増税に伴い

一部の加算も引き上げ予定

今回の0・63%引き上げは、今年4月に消費税率が8%へと引き上げられることに伴い、介護事業者に実質的な負担が生じない様に補填することが目的。かねてより分科会で議論されて来た様に、基本単位数の上乗せの他一部加算についても上乗せを行う。

なお、加算への対応については、課税費用の割合が50%を超えるかどうかを一つの目安として考えたい」と回答した。

この他、利用者の負担限度額については、入所者の所得状況などを勘案して定められていることから見直しは行わないが、体となっているが、今年11月以降、伝送については、「介護報酬の上乗せ対応により従来と同様のサービスを利用しているにもかかわらず区分支給限度額を超える利用者が新たに生じる」可能性があることから、下の表の通り引き上げを行う。

また、今回は、サービス事業者から国保連に対する介護給付費の請求方法について見直しを行うことも厚生労働省より報告された。

現在、請求方法は伝送（ISDN回線）・電子媒体及び紙媒体となっているが、伝送または電子媒体による請求を原則義務化するよう請求省令を改正する。

主な介護保険サービスの単位数

サービス名	現行の単位数	改正後の単位数
訪問介護（身体介護・20分未満）	170	171
訪問介護（生活援助・20分～45分未満）	190	191
訪問入浴	1250	1259
訪問看護（ステーション・20分未満）	316	318
通所介護（小規模 7～9時間 要介護1）	809	815
通所介護（通常規模 7～9時間 要介護1）	690	695
短期入所（単独型I 要介護1）	645	648
特定施設（要介護1）	560	564
居宅介護支援（I 要介護1又は2）	1000	1005
介護福祉施設（I 要介護1）	577	580
介護福祉施設（ユニット型 I 要介護1）	659	663
介護保健施設（I 要介護1）	710	716
定期巡回・随時対応型訪問介護看護（I 訪問看護を行わない場合 要介護1）	6670	6707
小規模多機能（要介護1）	11430	11505
認知症グループホーム（I 要介護1）	802	805
複合型サービス（要介護1）	13255	13341

注・居宅介護支援、小規模多機能、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、複合型サービスは1ヵ月あたり

区分支給限度基準額改正（一部抜粋）

（1）居宅介護サービス費等

要介護1	16,580単位	→	16,692単位
要介護2	19,480単位	→	19,616単位
要介護3	26,750単位	→	26,931単位
要介護4	30,600単位	→	30,806単位
要介護5	35,830単位	→	36,065単位

（2）外部サービス利用型特定施設入居者生活介護費に係る限度単位数

要介護1	17,024単位	→	17,146単位
要介護2	19,091単位	→	19,213単位
要介護3	21,280単位	→	21,432単位
要介護4	23,347単位	→	23,499単位
要介護5	25,475単位	→	25,658単位

2棟目の単独ショート開業

やさしい手 医療対応強化

やさしい手（東京都目黒区）が運営する単独型ショートステイ「ゆめてらす上板橋」の開所式が「軒茶屋一（54床）に続いて2ヵ所目。1月14日に開催された。サービス開始は2月1日。

▲開設式の様子

開所式では、同社香取幹社長が「地域の訪問介護事業所・通所介護事業所と密な連携を図りながら、高齢者がいつまでも住み慣れた板橋区で生活し続けられるようにサポートしていきたい」と挨拶。次いで土地・建物の所有者である小宮恒産村上茶屋一の登録人数は約3500人にもなる。「上板橋」でも、この品質を確保しながら、看護師の常駐時間を長くするなどして医療的ケアが必要な順会長が「この土地については高齢者にも対応していく考えだ。

同施設は40床。同社が手掛ける単独ショートステイとしては、6年前に開設した「ゆめてらす三ら（東京都渋谷区）は1月14日、潜在看護職員の就業に関する調査結果を発表した。それによると、2012年度のナースセンターの求人倍率は2・7倍と10年間で2倍以上に増加。特に看護師では3・17倍になるなど、看護職員不足の実態が改めて明らかになった（下グラフ）。

これは、各都道府県の看護協会が都道府県から委託を受けて運営している全国60ヵ所のナースセンターのデータをとりまとめたもの。

職を求める潜在看護職員の状況では、全体的に求職者は減少傾向にある中で、40代・50代および60代以上の求職者は増加している。勤務形態では、常勤希望者は年々減る傾向にあり、一方で非常勤雇用を希望する求職者の割合が多くなっており、働き方の多様化が進んでいる。

また、年齢別に希望する勤務先を見てみると、病院やクリニックは若い年齢層ほど勤務希望者が多いが、介護保険施設・事業所では年齢層が高くなるほど勤務希望者が多くなった。特に60代以上では、介護保険施設・事業所希望が半数を占める。

ナースセンターに登録している求職者のうち、施設を紹介されたのは28・6%。このうち実際に就職をしたのは66・3%であり、求職者の18・9%が就職した計算になる。現在未就業の求職者に限定すれば、紹介されたのは36・7%、就職率は27・0%となっており、就業者よりも未就業者の方が就職に結びついている結果となった。

一方で求人施設のうち、求職者を紹介されたのは10・6%。このうち66・3%が実際の就職に至っている。求人全体に占める採用率は7・0%となっており、募集をかけても思う様に採用に結びつかないという現実が明らかになった。

看護職の求人倍率2.7倍

10年で2倍に、人手不足深刻

ナースセンターの求人倍率（職種別）の推移

三菱UFJリースと提携

ミサワホーム

ミサワホーム（東京都新宿区）と三菱UFJリース（東京都千代田区）は高齢者施設の開発・運営などに共同で取り組むための業務提携を行った。将来的には共同出資会社の設立なども視野に入れる。

提携内容は、ミサワホームは、建築技術や介護施設の運営実績をもとに施設の設計・建設、介護サービスの提供を、三菱UFJリースは各種物件のリースやファイナンス業務のノウハウなどをもとに、施設のリースやそのための資金提供、顧客ネットワークの情報提供などを行うというもの。

なお、共同事業の第一弾として、三菱UFJリースが保有する都内の土地に施設を建設・運営していく予定。

介より始めよ

最近では、セーターやカーディガンを肩にはおり、袖を前で結んだ「プロデューサー巻き」などバブル景気時のファッションが人気だという。若い世代には目新しさもあるのかもしれないが「日本が元気だったときにあやかろう」という意識もあるのだろう。

バブル景気は約25年前。今、介護サービスを利用している高齢者たちの中には企業の役員などとして、空前の好景気の演出に一役買っていた人も多いのではないだろうか。片や介護現場で働く若者層は「生まれた時から不景気」で「働いても生活が楽にならないので」などという意識の強い世代。こうした世代に元気・希望を与えるためにも、高齢者が「元気だった日本」の姿を伝えることも大事なのではなかろうか。